

**大泉町 みらい創造羅針盤
～大泉町総合計画 2019～
基本構想
修正版**

(素案)

令和7年8月

大泉町

5 基本目標

I 「産業振興」～活力とにぎわいのあるまち～

本町の産業は、これまでの企業誘致の取り組みや地域に根ざした企業活動などに伴い、活発な地域経済をはぐくむ基盤を整備してきたことによって、大きな発展を遂げてきました。また、令和6年には、昭和45年以来となる大規模な工業地を上小泉地区に確保し、新たな企業進出が見込まれることから、本町がこれまで以上に発展していくうえで、またとない好機となっています。しかしながら、本町の商工業を下支えする町内の中小企業を取り巻く環境は、少子高齢化、グローバル化、デジタル化の進展など急速に変化する社会情勢の影響により、厳しい状況となっています。

また、農業においても、後継者不足による遊休農地や荒廃農地などが課題となっている中、農地の保全と有効活用、次代の担い手確保、農業の体質強化、高付加価値化の研究などの取り組みが必要です。

これらの社会情勢と新たな企業進出を見据え、各産業の経営基盤を強化することで雇用の創出・拡大を目指します。さらに、観光振興として、地域の特性を生かすとともに、ICT（インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー）【※1】の導入など新たな視点からの観光資源の発掘や開発、活用により、他地域にはない町の魅力を発信することで、「活力」と「にぎわい」をキーワードに『産業振興』を推進します。

II 「基盤整備」～快適で住みやすいまち～

これまで本町は、快適かつ豊かな都市環境の充実に向けて、道路環境の整備をはじめとする基盤整備に取り組んできました。

今後も、自動車が主な移動手段となる地域の特性を踏まえた道路の整備や維持管理をはじめ、公園・緑地の保全、災害に強い河川・水路の整備に加え、多様な生活様式にも配慮した交通手段の整備などにも積極的に取り組むことで、あらゆる人に優しく、本町で生活するすべての人に「住みやすい」と感じてもらえるよう、また、将来都市像で掲げられている「住んでみたい、住み続けたい」という思いの実現のため、「快適さ」と「住みやすさ」をキーワードに『基盤整備』を推進します。

III 「行財政と協働」～互いにおもいやり、みんなで築く協働のまち～

本町の行財政と協働については、効率的かつ健全な行財政運営や積極的な住民【※2】参画による協働のまちづくりを推進してきましたが、近年の社会情勢のめまぐるしい変化により、これまでも増して迅速かつ柔軟な行財政運営が求められています。

そのため、住民のニーズを的確に把握し、安定した継続性のある行政サービスを提供するために、適時・適切に対応できる柔軟な組織体制づくりに取り組みます。また、庁舎周辺を新たな出会い、ふれあい、つながりを生む拠点としていきます。

さらに、行政だけで課題を解決するのではなく、世代や国籍を問わず、それぞれがお互いの立場や特性を認識・尊重しながらみんなで協力し合うことで、より良いまちづくりの基礎を築くために、「おもいやり」と「協働」をキーワードに『行財政と協働』を推進します。

※1 ICT…情報通信技術と訳されており、インターネットなどを活用した産業、サービスなど幅広い意味をもつ言葉として使用されます。

※2 住民…本町に住所登録を有する「町民」のほか、本町にかかわりのある人や地域社会の一員である住民生活団体、企業などを示します。

Ⅳ「保健福祉」～誰もが支え合い、健康で心豊かに暮らせるまち～

本町の保健福祉については、前総合計画において「誰もが健康でいきがいのあるまち」を目標とし、その実現に向けて、様々な取り組みを行ってきましたが、その一方で、全国的な問題となっている少子化については、核家族化の進展や未婚化、晩婚化、出産年齢の上昇など、様々な要因により進行しており、安心してこどもを産み育てられる環境が求められています。

また、高齢化も進む中で、自立した生活を送ることができる「健康寿命」の延伸のため、高齢者が住み慣れた地域で安心して、生きがいを持って、暮らすことができるよう、地域全体での支援体制を充実させていく必要があります。

さらに、感染症の流行など、世代や場所を問わず人々の生命に危険を及ぼすような事態においては、行政のみでなく、あらゆる分野との幅広い連携による対応が求められます。

今後も、すべての町民が、生涯を通じて健康で心豊かに過ごすため、地域福祉計画における「自助」・「互助」・「共助」・「公助」を重層的に積み重ねた地域ぐるみの福祉が重要と考え、「支え合い」と「豊かな心」をキーワードに『保健福祉』を推進します。

Ⅴ「生活環境」～環境と調和した安全安心なまち～

本町の生活環境については、これまで、協働の視点から町民や地域、団体と連携し、快適に生活できるよう地域環境に配慮した事業や、安全安心なまちづくりを積極的に実施してきましたが、下水道やごみ処理体制の整備、防犯対策については、更なる推進や強化が必要であるとともに、本町で生活する人はもちろん、訪れる人も本町に移り住みたいと選択してもらえることが重要と考えます。

東京圏と適度な距離がある本町の特性を生かし、多様な生活様式に対応できる支援策の充実、町営住宅の管理・運営、大泉町地域防災計画などを軸として、安全安心なまちの形成を推進し、すべての町民が快適で住みやすく魅力あるまちとするための施策の推進を図り、「環境」と「安全安心」をキーワードに『生活環境』を推進します。

Ⅵ「生涯学習」～夢とやさしさをもって、生き生きと学ぶまち～

本町の教育については、地域発展のための担い手の育成を目指し、家庭や学校、地域社会との連携を深めてきました。

今後も「大泉町教育大綱」を基本とし、日々めまぐるしく変化し、多様化する社会を、広い視野でたくましく生き抜く力を持った人材の育成のため、学校と家庭、地域社会が連携し、幅広い世代のニーズに対応できる持続可能な学習機会の確保と情報提供を図り、心身の豊かさを創造する教育を推進します。

本町で生活するあらゆる人が、様々なことにチャレンジしていくための夢や意欲を持ち、まさに生涯にわたっての学びを充実させ、やさしさやおもいやりを持ちながら、生き生きと学ぶことができるまちを目指し、「夢」と「学び」をキーワードに『生涯学習』を推進します。

◎基本目標の達成に向けて

基本目標の全分野の取り組みにおいてＩＣＴを積極的に導入していくことで、官民一体となってＤＸ【※３】を目指していきます。

※３ ＤＸ…ＩＣＴの浸透が人々の生活をあらゆる面で良い方向に変化させることをいいます。